No.

…は六百八十八人中男子四百五十八人女…

火の車で職工増員

製鐵所のヂレンマ

痛たし痒しの注文殺到 依然失業者に對する大磁石

八幡製鐵所では一ヶ年有餘に渉り職工の自然淘汰を斷行し採用僅かに九百四十名餘りに對し解職は二千六百六十一名に達し差引一千七百二十一名餘りを淘汰した然るに三月初旬以來價格の引上を爲すまでに鐵界は活境を呈し注文は生産額以上に達し豫想を裏切つた爲め工場の縮小を中止し反て擴張しなければならなくなつたこれが爲め職夫の増員及職工の増員を爲さなければならぬ破目に陷り本月初旬から製鋼運搬工場に五十名外輪工場に五十二名合計百二名の職工を募集したが應募者は實に三百名以上に達した尚擴張工事は出來得る限り金の許す範圍内で工事の進捗を計つてゐるので一萬五千五百餘名の職工と五千四百廿八名の職夫が連日活躍してゐるが職工數に在りては餘り變りはないが職夫は昨冬來毎日四千七八百名を使役してゐたのが昨今は七百餘名を増員してゐる不景氣で内懐は火の車を舞はし乍ら職工職夫に對しては依然不景氣知らずの夢を見せて居る處は何と云つても製鐵所が失業者に對する一大磁石たる事を裡書するものである

延期と緊縮の裡に 爪牙を揃えて

景氣回復を待つ製鐵

二工場半成立腐れ

八幡製鐵所では財界の不況を見越して擴張工事の延期を物價騰貴に依る工事費増額を本期議會に提出して居たが延期は豫期の如く通過し増額は内閣の緊縮方針に祟られて葬られ明後年度に繰越さるゝ事に決定した然るに工場建設は金の許す限り工事の進捗に努めた結果ブリキ工場は既報の如く二月末竣成し何時でも十二本のロールが運轉し年一萬八千噸を生産する用意まで出來たがブリキ界が餘り好況でない爲めに事業は未だに着手されてゐない此の他平爐六基、第三大形、第五分塊、板甲鋼片の四工場は機械の据付を終り殆んど竣成したが殘餘の瓦斯發生爐及第六分塊の二工場は海岸通りの土地收用後家屋立退きが捗々しく進まず立退きには種々の理由を設けて頑強に突張つてゐる關係上工場は半成の儘立ち腐れの状況を呈してゐる而し土木工事は悉く人爲に依るので目立つた進捗を示さず貨物停車場河内貯水池、擬縮壁など何れも大正十三年末までに竣成せしむれば足る方針を取つてゐる斯様な状況であるから一般關係者は景氣の挽回を待ち工場の作業を一齊に開始し市場に製品を出すたらうと觀測してゐる

製鐵所と恩給

十五年説が出る

八幡製鐵所は明治三十八年六月一日に職工共濟會を組織して會員から毎月日給の半日分を徴收し會員の傷病其他家族扶助及び永年勤續恩給の制度を設けて居り現在一萬八千九百六十人の會員を有し積立金總額は一百萬圓を突破する状況であるそして右は年々政府の補助を受けつゝ有つて昨年度は十二萬圓十年度は廿四萬圓を補助されたのである三十八年の創立後大正八年一月一日に到り該會の規則が改正され三十八年六月一日前からの勤務者は滿二十年で恩給約三ヶ月分を與へ其の後の入會者は廿五年と云ふ事になつた然るに時勢は刻々に進展して行くので昨年來製鐵所では更に右規約の改正を計畫し勅令に俟つて恩給制度に對する補助を仰がんとして目下頻に研究中であるが製鐵所側では創立當時から大正八年の改正當時迄の會員を全部廿年にしやうとの意志があるので職工組合の同志會では其れを十五年にして貰よとの希望を提出して居る然うなると三十八年の共濟會組織に當り非常な盡力をした同年六月一日以前の入所職工者は不利な位置に立つので其方からも製鐵所側に陳情されて居るが其の爲め山形庶務課長は廿九日東京に向け出發した或は六月一日から實施される様に成るかも知れないとの事である製鐵所側の廿年説が實現するか同志會側の十五年説が如何になるか將た三十八年六月一日前の入所者の陳情が如何に按配されるか未だ判明しないので餘程該問題は注意されて居る

(甲)